

# 公立小・中学校の特別支援教室に係るガイドラインの改訂について（概要）

## ガイドラインの作成及び今回改訂の経緯

平成28年度からの導入にあたり、区市町村教育委員会に対して、学校の環境整備・運営方法等を示すことやモデル地区の取組等を示す目的で作成

➔ 令和3年4月に全校導入が完了することから、これまでの成果と課題を踏まえ、今後は、運営の更なる充実を図るために改訂

## これまでの主な成果と課題

- 成果**
- ・ 支援が必要な全ての子供が在籍校で特別の指導を受けられるようになった。
  - ・ 巡回指導が制度として定着し、在籍学級との連携がはかりやすくなり、指導内容・時間が精選された。

**課題** 区市町村教委への調査等から以下のとおり課題を整理

### (1) 入室（指導開始）に関すること

在籍児童生徒に占める特別支援教室の利用児童生徒数の割合が区市町村間で大きな差（1%～8%）

➔ 入室に関する検討や決定の方法が、区市町村や学校で異なる。

### (2) 退室（指導終了）に関すること

目標を達成して退室する児童生徒の割合が、区市町村間で大きな差（おおむね0%～20%）

➔ 退室を見据えた指導目標の立て方及び指導目標に対する評価の考え方が難しい。

### (3) 指導期間に関すること

3年以上指導を受けている児童は、全体の5割以上

➔ 十分な検討を経ない指導継続や退室後に再度の指導を要する場合の子供や保護者の手続きへの不安を感じている実態

## 入退室等検討委員会

- ◆ 期間 令和元年11月～令和2年11月（6回開催）
  - ◆ 委員 国立特別支援教育総合研究所統括研究員 滑川典宏 / 横浜国立大学大学院教授 渡部匡隆 / 明星大学教授 森下由規子 / 小中学校長 等
- 各課題に対する対応策の検討及び提案**

- つまづきや困難さを把握するための「学習と行動のチェックリスト」の改訂
- 在籍学級での支援や担任の評価等、入室検討プロセスを整理しフローチャート化

- 指導目標・内容の設定に関する考え方
- 退室を検討する際に確認すべき事項を整理
- 指導への定期的な評価等のプロセスを整理しフローチャート化

- 定期的な振り返りを行い、成果を適切に評価するために、「原則の指導期間」を設定
- 再度入室が必要になった児童・生徒が速やかに入室できる「再入室」の仕組みを設定

発達障害のある子供への支援の充実を図るため、ガイドラインを改訂

# 改訂版ガイドライン（特別支援教室の運営ガイドライン）の構成

## 第一部 特別支援教室運営の充実に向けて

目次	概要（★改訂）
第1章 特別支援教室とは	特別支援教室の目的、対象児童・生徒、運営上の留意事項
第2章 特別支援教室の基盤整備 【一部新規】	★巡回指導方式の狙い、利点を明記 ★校長・在籍学級担任の役割・責務の記載を充実
第3章 入室と退室（指導の開始と終了） 【新規】	★原則の指導期間設定により、定期的な振返りを行い指導の成果の適切な評価を促す ★入室、入室後（退室・指導延長等）の検討プロセスをフローチャート化 ★入退室の検討における在籍学級担任や教科担任の役割の重要性を強調 ★入室検討段階から、本人・保護者と指導目標や退室の目安を共有することを明記
第4章 専門性の向上と理解促進	・OJTの重要性、意義、具体的な方法 ・全ての教職員の理解推進と指導力向上
第5章 特別支援教室の運営	巡回指導教員の人事管理

## 第二部 実態把握から始める支援の充実に向けて～在籍学級での支援から特別支援教室の退室までの流れと考え方～

【新規】

目次	概要（★改訂）
第1章 在籍学級を中心とした支援の充実	★「学習と行動のチェックリスト」の改訂 チェック項目の内容を精選し、学級担任等が指導・支援の初期段階で、児童・生徒のつまずきや困難さを把握することができるリストとして改訂
第2章 特別支援教室の利用と在籍学級との連携	★指導目標・内容の設定に関する考え方を整理 自立活動の内容を参考とし、実態把握から課題の抽出、指導目標・内容の設定までの流れと考え方を明示
第3章 特別支援教室の退室に向けた考え方	★退室に向けて確認する項目を整理 実態把握から指導目標に対する達成状況の把握、退室又は指導を継続する場合を想定した確認事項を整理